

学校教育法施行規則で定められた情報の公表（令和 7 年度）

教育研究上の基礎的な情報

（１）研究科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的及び学校教育法施行規則第百六十五条の二 第一項の規定により定める方針

研究科、専攻ごとの名称（令和 7 年 5 月 1 日現在）

研究科	専攻
人間科学研究科	心理臨床学専攻

研究科、専攻ごとの教育研究上の目的（令和 7 年 5 月 1 日現在）

本学大学院は、カトリック精神に基づき、広い視野に立って、精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な能力を養い、地域と世界に貢献しうる有能な人物を育成するとともに人類の平和及び文化と福祉の発展に寄与することを目的とする。

人間科学研究科心理臨床学専攻では、より高度な専門的知識を身につけた心理臨床の専門職業人を育成し、多様な分野での課題解決に必要とされている臨床心理士等の人材を育成することを目的としている。

学校教育法施行規則第百六十五条の二 第一項の規定により定める方針（令和 7 年 5 月 1 日現在）

■ 人間科学研究科 心理臨床学専攻について

修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- 1) 研究遂行に至る読解力、資料収集、分析能力を持ち、内外へ発信する能力を培っている。
- 2) 研究倫理を遵守した上で、研究目的やその意義を正確に論述する能力を有している。
- 3) 論理的思考、創造的思考を身につけ、臨床的場面での問題点を見つけることができる。
- 4) 社会に貢献できる有為な心理臨床家としての素養を身につけている。
- 5) 心理臨床学を基盤に、幅広く深化した高度な理論的・実践的能力を身につけ、独創的視点で修士論文をまとめる統合力、総合力を獲得している。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

研究力、臨床力、社会的責任・倫理観の絶妙なバランス感覚をもった、社会に求められる心理臨床家を養成するために、以下のようなカリキュラムを提供する。

- 1) 社会的責任・倫理観：

一人の人間としてのアイデンティティを確立し、研究倫理に加え、社会に貢献できる資質を涵養できるよう研究指導、臨床指導を行う。
- 2) 研究力：

心理臨床学をベースに、学際的に学ぶ態度（リベラルアーツ）を培えるような「専門領域」科目を開講する。また、修士論文作成を通し、創造的に研究する力を養い、自らの心理臨床的関心を深めるようにする。少人数制により、独創的で社会に貢献しうる研究力を涵養し、その成果を修士論文としてまとめられるよう「特別研究」の科目を開講する。
- 3) 臨床力：

地域貢献を踏まえた臨床心理実習を充実させた「課題研究」科目を提供する。心理専門職としての基本姿勢や倫理観、社会人としてのマナー、コミュニケーション力を育む「臨床心理基礎実習」を基礎とする。1・2 年次の「心理実践実習Ⅰ」「臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）」により、学内実習及び、医療施設・福祉施設等での臨床実習を提供する。また、2 年次の「臨床心理実習Ⅱ」では、学内実習の事例検討を実施し、事例研究論文としてまとめていく力を養う。これらの臨床実習を通して、他者の苦悩を想像する力、アセスメントする能力、創

造的な支援（臨床心理面接）のありようを感得できるよう、スーパーヴィジョン・ケースカンファレンスを重視する。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

- 1) 心理臨床学のみならず、幅広い知識と教養（社会的常識）をもつ人。
- 2) 他者の気持ちを想像し、場の雰囲気や状況をよみ、自らの意志や感情を表現し、相互に伝えあい、理解しあえる素養をもつ人。
- 3) 心理臨床家として有為な存在となるべく、主体的で謙虚さをもった人。

学校教育法施行規則で定められた情報の公表（令和 7 年度）

教育研究上の基礎的な情報

（２）専任教員数

専任教員数（令和 7 年 5 月 1 日現在）

大学院は法令上必要な専任教員数を満たしている。

下表の数値は「令和 7 年度 学校法人基礎調査」の回答に準じる。

研究科	専攻	教授	准教授	講師	助教	助手	計	男性	女性
人間科学研究科	心理臨床学専攻	6	1	0	1	0	8	3	5

学校教育法施行規則で定められた情報の公表（令和 7 年度）

教育研究上の基礎的な情報

（３）入学者の選抜に関すること

入学者の選抜に関すること

「学力検査等の内容」、「試験問題に関する情報」、「合否判定の方法及び基準」並びに「合理的配慮の提供に関する対応方法（相談窓口、事前相談や配慮の申請の方法及び受験上の配慮の一般的な例等）」の掲載場所は以下のとおりである。

大学ホームページ
「教育情報の公表」

<https://www.k-junshin.ac.jp/jundai/disclosure/info-education/>

学校教育法施行規則で定められた情報の公表（令和7年度）

教育研究上の基礎的な情報

（４）校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境
（キャンパス概要、運動施設概要及びその他の学習環境、主な交通手段）

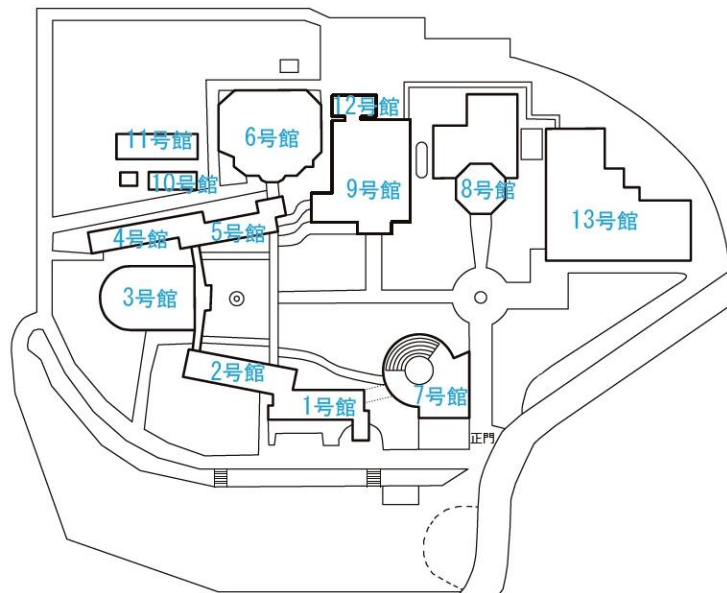
キャンパス概要（令和7年5月1日現在）

さつませんだい あまたつ

所在地： 鹿児島県薩摩川内市天辰町2365 番地

校地面積： 98825 m²

校舎総面積：21630 m² ※体育館、講堂等（大学設置基準第36条第5項参照）は含まない。



校舎の名称	主な教育研究環境等
1号館 管理棟	事務室、こども英語教育教材開発室
2号館 ゼミ・研究棟	保健室、進路支援課（資料室、面談室、web 面接室含む）、地域連携推進室、教員養成センター、学生相談室、教職自習室
3号館 図書館	開架図書室、閲覧コーナー、展示室（純心創立のこころ）、キリスト教関係資料室、試験対策室、グループ学習室、情報リテラシー支援室、AV 室
4号館 実習棟	生物化学実験室、食品加工実習室、微生物実験室、共同実験室化学系、保健実習室、看護実習室、母性看護実習室、沐浴室
5号館 講義棟	普通講義室、小講義室、中講義室、看護演習室
6号館 体育館	アリーナ、トレーニングホール
7号館 学生ホール棟	食堂
8号館 チャペル	チャペル
えづみ 9号館 江角記念ホール	オーディオルーム、給食経営管理実習食堂、ラウンジ、セミナー室、講堂、学生活動室、語学実習室、健栄ラウンジ
10号館 動物舎	動物舎、実験室、薬品室
11号館 臨床栄養実習・生理学実験棟	生理学実験室、臨床栄養実習室
12号館 給食経営管理実習棟	給食経営管理実習室、検収室、下処理室、洗浄消毒室
13号館 サンタマリア館	博物館、礼法室、PC 教室、情報ゼミ室、マルチメディア資料作成室、ICT 講義室、こども学演習室、階段講義室、デザイン室、音楽室兼講義室、ピアノ室、ピアノ練習室、小児保健実習室、学生会室、心理実験室、被服製作実習室、こども総合実習室、栄養教育実習室、臨床栄養実習室、大学院（大学院生研究室、資料室、講義室兼会議室）、心理臨床相談センター（相談室、ケースカンファランス室、スーパービジョン室、ブレイルーム、モニタールーム、心理査定室、資料室、研修員室）

運動施設の概要（令和 7 年 5 月 1 日現在）

6 号館（体育館）はバスケットボールコート 2 面分の広さで、学部の授業等に使用されている。
1 階総面積：1892.28 m² 2 階総面積：478.58 m²

休息を行う環境（令和 7 年 5 月 1 日現在）

主に 9 号館（江角記念ホール）1 階のラウンジ、7 号館（食堂）等が使用されている。

課外活動の状況及び活動施設（令和 7 年 5 月 1 日現在）

大学院は該当なし

主な交通手段（令和 7 年 5 月 1 日現在）

主な交通手段		所要時間（時刻表に基づく参考値）	
本学スクールバス		川内駅前（東口）⇔ 本学	（約 7 分）
鹿児島交通	高速バス センдай号	鹿児島中央駅（東口）⇔ 本学	（約 62 分）
	路線バス 46・47 番線	川内駅前（西口）⇔ 本学	（約 10～14 分）
	路線バス 指定寮間直行	マリオンホール⇔ 本学	（約 18 分）
JR 九州	九州新幹線	鹿児島中央駅⇔ 川内駅	（約 12 分）
	鹿児島本線	鹿児島中央駅⇔ 川内駅	（約 49～56 分）
肥薩おれんじ鉄道		阿久根駅⇔ 川内駅	（約 36～45 分）



学校教育法施行規則で定められた情報の公表（令和 7 年度）

教育研究上の基礎的な情報

（５）授業料、入学料その他の大学が徴収する費用

授業料、入学料等の初年度納付金（令和 7 年 5 月 1 日現在）

費目	金額	備考
入学金	150,000	入学手続時徴収
授業料	550,000	前期及び後期の 2 期に分けて徴収
実験実習料	50,000	
教育充実費	70,000	
図書館費	30,000	
初年度納付金の合計	850,000	

※その他徴収費

入学検定料： 30,000 円（出願時徴収）

学生教育研究災害傷害保険料・学研災附帯賠償責任保険料： 2,430 円（2 年分を入学初年度に徴収）

※「学内推薦選抜」の出願資格に該当する場合、入学検定料 3 万円を免除する。

※本学出身者の場合、入学金を 10 万円減額する。

学校教育法施行規則で定められた情報の公表（令和 7 年度）

教育研究上の基礎的な情報

（６）校舎等の耐震化率

校舎等の耐震化率

令和 7 年 4 月 1 日現在、学校法人鹿児島純心女子学園ホームページの「情報公開」内で公表している。

法人ホームページ
「情報公開」

<https://www.k-junshin.ac.jp/gakuen/about/>

学校教育法施行規則で定められた情報の公表（令和 7 年度）

教育研究上の基礎的な情報

（7）寄附行為、役員名簿、役員報酬等基準

寄附行為、役員名簿、役員報酬等基準

令和 7 年 4 月 1 日現在、学校法人鹿児島純心女子学園ホームページの「情報公開」内で公表している。

法人ホームページ
「情報公開」

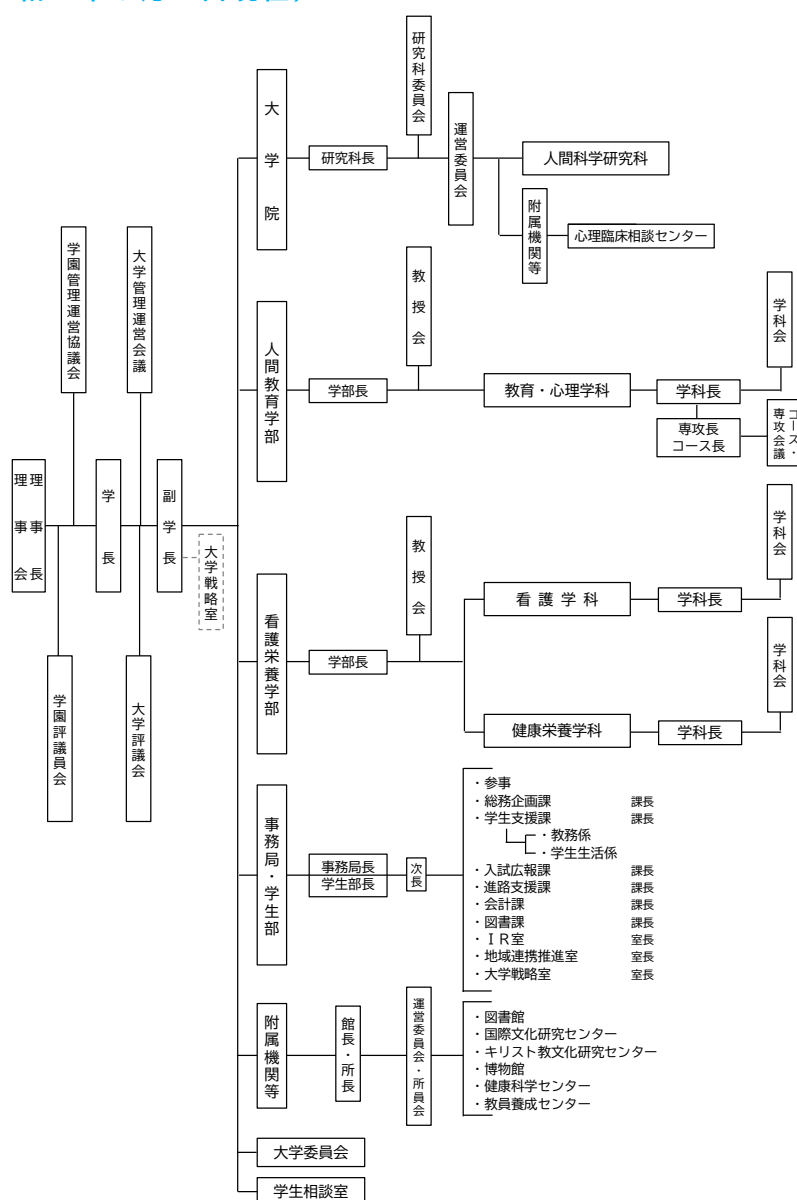
<https://www.k-junshin.ac.jp/gakuen/about/>

学校教育法施行規則で定められた情報の公表（令和 7 年度）

修学上の情報

(1) 教員組織、各教員が有する学位及び業績

組織機構図（令和 7 年 5 月 1 日現在）



注1 教授会・・・学校教育法第93条で置くこととされている教授会は、大学院「研究科委員会」及び各学部「教授会」とする。

注2 大学評議会・・・学則第7条で置かれる学長の諮問機関である。

各教員が有する学位及び業績（令和 7 年 5 月 1 日現在）

大学院を担当する専任教員（8名）についての情報は次ページ参照

（令和7年5月1日現在）

鹿児島純心大学大学院 教員情報

口岩 俊子（KUCHIIWA Toshiko）	
所属	人間教育学部 教育・心理学科 初等・中等（英語）教育専攻 こども発達コース 大学院 人間科学研究科 心理臨床学専攻
職名	教授／大学院 人間科学研究科 研究科長

【学位・業績等】

有する学位	医学博士
学位取得大学	弘前大学大学院医学研究科博士課程
主な担当科目	〔学部〕 人体の構造と機能、人体の構造と機能及び疾病 〔大学院〕 神経学特論
専門分野	脳科学、神経解剖学
主な研究テーマ	実験動物における鬱症状の定量的評価の試み ダイオキシン胎盤・母乳暴露による脳への影響について
学会・社会活動	日本神経科学会、日本解剖学会、日本薬理学会
主な業績 （教育・研究等）	1. Evaluation of aggressiveness of female mice using a semi-automated apparatus for measurement of aggressive biting behavior toward an inanimate object. Toshiko Kuchiiwa & Satoshi Kuchiiwa Neurosci Meth., 257(2016)179-184. 2. A novel semi-automated apparatus for measurement of aggressive biting behavior in mice. Satoshi Kuchiiwa & Toshiko Kuchiiwa Neurosci Meth., 228(2014)27-34. 3. 頭頸部の自律神経 口岩 聡、口岩 俊子 JOHNS,30(2014)1403-1407 4. 光を見るとくしゃみが出るのはなぜですか？ 口岩 聡、口岩 俊子 Clinical Neurosci., 33(2015)479 5. 特許第4858996号 【発明の名称】 刺激応答計測装置および刺激応答計測方法 【日本国登録日】 2011年11月11日

（令和7年5月1日現在）

鹿児島純心大学大学院 教員情報

阿部 美穂子（ABE Mihoko）	
所属	人間教育学部 教育・心理学科 心理・文化専攻 大学院 人間科学研究科 心理臨床学専攻
職名	教授

【学位・業績等】

有する学位	博士（教育学）
学位取得大学	東北大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻博士課程
主な担当科目	〔学部〕 発達心理学 知的障害のある子どものカウンセリング 等 〔大学院〕 教育心理学特論 臨床心理学査定演習 等
専門分野	特別支援教育 臨床心理学 インクルーシブ保育 ムーブメント教育・療法
主な研究テーマ	障害や病気のある子どものきょうだい、および家族のQOL 支援 発達に気がある子どもの支援臨床 ペアレント・トレーニング 保育カウンセリングとコンサルテーション
学会・社会活動	日本特殊教育学会 日本保育学会 日本家族心理学会 日本LD学会 日本児童学会 IASSIDD（INTERNATIONAL ASSOCIATION FOR THE SCIENTIFIC STUDY OF INTELLECTUAL AND DEVELOPMENTAL DISABILITIES）等 （社）日本きょうだい福祉協会理事 JAMET（NPO 法人日本ムーブメント教育・ 療法協会）認定常任専門指導員
主な業績 （教育・研究等）	<学術論文> ・障害のある子どもとともに生きる家族を支える：保護者支援・きょうだい支援の立場から（単著）発達障害研究 45（4）、310-319 2024 ・障害のある人の「もうすぐ大人期」のきょうだいが抱く悩みに関する研究：思春期後期～青年期前期にあるきょうだいへのアンケート調査から（単著）山梨県立大学看護学部・看護学研究科研究ジャーナル 10 1-10 2023 ・話し合い参加型活動が障害のある子どものきょうだい児を育てる母親にもたらす意識変容－ワークシートの記述分析に基づいて－（単著）山梨県立大学看護学部・看護学研究科研究ジャーナル 9 1-13 2022 ・障害のある子どものきょうだい児を育成する親の支援ニーズに関する研究－同胞の障害タイプに着目して－（共著）児童研究 98 43-51 2019 他 <著書> ・保育者・教育者になる人のための特別支援教育―当事者の声を聴く―（分担執筆）2025 萌文書林 ・実践！ ムーブメント教育・療法―楽しく動いてからだ・あたま・こころを育てる―（編著）2023 クリエイツかもがわ ・よくわかるインクルーシブ保育（共編著）2020 ミネルヴァ書房 ・障害のある子どものきょうだい支援プログラム開発に関する実践的研究（単著）2019 多賀出版 ・よくわかる障害児保育 第2版（共編著）2018 ミネルヴァ書房 ・MEPA-R 活用事例集―保育・療育・特別支援教育に生かすムーブメント教育・療法（共編著）2017 日本文化科学社 他

（令和 7 年 5 月 1 日現在）

鹿児島純心大学大学院 教員情報

石井 洋平（ISHII Youhei）	
所属	人間教育学部 教育・心理学科 心理・文化専攻 大学院 人間科学研究科 心理臨床学専攻 ※臨床心理士・公認心理師
職名	教授

【学位・業績等】

有する学位	医学博士
学位取得大学	久留米大学大学院
主な担当科目	（学部）教育・学校心理学、神経・生理心理学など （大学院）心の健康教育に関する理論と実践、臨床心理基礎実習など
専門分野	精神生理学、臨床心理学
主な研究テーマ	統合失調症患者の認知機能について、地域における心理支援について
学会・社会活動	日本臨床神経生理学会、日本精神神経学会、日本神経科学会、日本心理臨床学会、日本コミュニティ心理学会、九州精神神経学会
主な業績 （教育・研究等）	● 近赤外線スペクトロスコピーとアイマークを用いた統合失調症者の情動関連血流変動の特性-健常者との比較検討-. 臨床神経生理学, 18 巻 1 号, 2008（共著） ● Effects of emotionally charged sounds in schizophrenic patients using exploratory eye movements: comparison with healthy subjects. Psychiatry and clinical neurosciences, Vol. 64, 2010（共著） ● Left eye scanning deficit in schizophrenia patients under emotional loading task: comparison with healthy controls. Kurume medical journal, Vol. 59, No. 1-2, 2012（共著） ● しりとり課題を用いた単一事象関連デザインによる NIRS 計測（Kurume Single Event Related Design: K-SERD）の試み：健常者と統合失調症患者との比較検討. 臨床神経生理学, 47 巻 3 号, 2019（共著） ● The changes in concentration of cerebral oxygenated hemoglobin during single event-related Japanese Shiritori task in patients with major depression disorder: comparison with healthy subjects. Frontiers in Psychiatry, Vol. 12, 2021（共著）

（令和7年5月1日現在）

鹿児島純心大学大学院 教員情報

小島 摩文（KOJIMA Mabumi）	
所属	人間教育学部 教育・心理学科 初等・中等（英語）教育専攻 こども発達コース 大学院 人間科学研究科 心理臨床学専攻
職名	教授

【学位・業績等】

有する学位	文学修士
学位取得大学	鹿児島大学大学院
主な担当科目	〔学部〕 民俗学、日本文化論、こども文化概論、博物館概論 〔大学院〕 文化人類学特論
専門分野	民俗学、民具学、博物館学
主な研究テーマ	民具研究、物質文化研究、 馬と人の関わり
学会・社会活動	日本民具学会会員 鹿児島民俗学会会員、鹿児島民具学会副会長、比較民俗学会会員
主な業績 （教育・研究等）	「馬」『図録 メコンの世界 -歴史と生態-』秋道智彌編 弘文堂 2007 「塩と茶の交易史」（共著）『地域の生態史 [モンスーンアジアの生態史第2巻]』 ダニエル・クリスチャン編 弘文堂 2008 弘文堂（2008/5/16） 「在宅と外在化」『死の儀法－在宅死に見る葬の礼節・死生観』近藤功行編ミネルバ書房 2008 04 「民具学としての物質文化研究」『国際常民文化研究叢書3』神奈川大学 国際常民文化研究機構 2013 「アチックフィルムにみる民具」『国際常民文化研究叢書10』神奈川大学 国際常民文化研究機構 2015 「馬具の種類と名称について－データベース化のための標準名を考える－」『神奈川大学 国際常民文化研究機構 年報 第5号』2015

（令和7年5月1日現在）

鹿児島純心大学大学院 教員情報

中村 誠文（NAKAMURA Masafumi）	
所属	人間教育学部 教育・心理学科 心理・文化専攻 大学院 人間科学研究科 心理臨床学専攻 ※臨床心理士・公認心理師
職名	教授

【学位・業績等】

有する学位	心理臨床学修士
学位取得大学	鹿児島純心女子大学大学院
主な担当科目	〔学部〕 公認心理師の職責、社会・集団・家族心理学 〔大学院〕 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と方法
専門分野	臨床心理学・家族心理学 家族療法・短期療法
主な研究テーマ	不登校支援における心理臨床家の役割に関する研究 シングル・セッションに関する研究 心理臨床における「連携」と「協働」に関する研究
学会・社会活動	日本心理臨床学会 日本家族心理学会 鹿児島精神神経学会 九州心理学会 日本ブリーフセラピー協会
主な業績 （教育・研究等）	<学術論文> ・「連携」と「協働」の概念に関する研究の概観—概念整理と心理臨床領域における今後の課題— 鹿児島純心女子大学大学院人間科学研究科紀要第7号（共著）2012. ・心理臨床学的研究への現象学的アプローチの貢献への可能性—個別性と普遍性に着目して— 鹿児島純心女子大学大学院人間科学研究科紀要第10号（共著）2015. ・教育現場における心理臨床家の役割—教員への不登校支援に視点をあてたアンケート調査から— 鹿児島純心女子大学大学院人間科学研究科紀要第10号 2015. ・拘束と記述から得られるもの—ベイトソンの認識論から— International Journal of Brief Therapy and Family Science（I.J.B.F.）Vol. 5, No. 1（共著）2014. ・障害児支援の変遷と今後の可能性について—「連携」に視点をあてて— 鹿児島純心女子大学大学院人間科学研究科紀要第11号 2016年 ・スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーによる連携・協働に関する一考察 鹿児島純心女子大学こども発達臨床センター紀要第8号 2016. 他 <著書（共著）> ・資質・能力を育む保育内容領域 人間関係—こどもにとっての人間関係とは—（斎藤崇編著）教育情報出版 2023. ・保育内容「人間関係」と指導法 考える・調べる・学び合う（近喰晴子・小泉裕子編著）中央法規 2023.

（令和 7 年 5 月 1 日現在）

鹿児島純心大学大学院 教員情報

餅原 尚子（MOCHIHARA Takako）	
所属	人間教育学部 教育・心理学科 初等・中等（英語）教育専攻 児童生徒教育コース 大学院 人間科学研究科 心理臨床学専攻
職名	教授 / 大学院心理臨床相談センター長

【学位・業績等】

有する学位	文学修士
学位取得大学	鹿児島大学大学院人文科学研究科（心理学）
主な担当科目	〔学部〕 臨床心理学概論等 〔大学院〕 臨床心理学特論、臨床心理面接特論、臨床心理査定演習等
専門分野	臨床心理学
主な研究テーマ	トラウマ（PTSD、CIS）、発達障害、情緒障害、精神障害、人格障害等の臨床心理査定、臨床心理面接に関する研究
学会・社会活動	＜学会＞ 日本心理臨床学会・日本ロールシャッハ学会 日本人間性心理学会・日本児童青年精神医学会 など ＜社会的活動＞ 鹿児島労働局発達障害者専門指導監／ 鹿児島県教育支援委員会委員／鹿児島県社会福祉審議会委員／ 公益社団法人かごしま犯罪被害者支援センター理事長 など
主な業績 （教育・研究等）	＜学術論文＞ ・性的虐待（レイプ、セクハラ・ストーカー）により、PTSD症状を呈した2症例のロールシャッハ反応（査読付 2001） ロールシャッハ研究第5巻（日本ロールシャッハ学会）p53～66 ・性犯罪被害によるPTSDの事例へのカウンセリング～信頼の絆が結ばれるまで～（査読付 2003） カウンセリング研究、第36巻、（日本カウンセリング学会）p437～445 ・救援者のストレス（PTSD、CIS）の予防とケアに関する臨床心理学的研究（2005） 平成15～17年度科学研究費補助金（若手研究B）報告書 ・ある発達障害児への児童中心遊戯療法の過程～発達の變化に視点をあてて～（2008） 鹿児島純心女子大学心理臨床相談センター紀要第3号 P19～26 ・ロールシャッハ・テスト後に急速な回復を見せたTSDの2事例（査読付 2015） ロールシャッハ研究第19巻（日本ロールシャッハ学会） ・質的研究におけるインタビューに関する一考察～現象学的心理学の視点から～（2024）鹿児島純心大学大学院心理臨床相談センター紀要第19号 他 ＜著書（共著）＞ ・臨床心理学辞典（恩田彰・伊藤隆二編）（1999）八千代出版 ・最新・心理学序説（本明寛監修）（2002）金子書房 ・新臨床心理学（橋口英俊・滝口俊子編著）（2004）八千代出版 ・臨床心理学（久留一郎・餅原尚子著）（2019） —「生きる意味」の確立と心理支援— 八千代出版 など ＜外部資金＞ ・2003年～2005年度（科学研究費）、2005年～2007年度（学術研究振興資金）、2008年～2022年度（科学研究費） KAKEN: http://kaken.nii.ac.jp/d/r/70352474.en.html

（令和7年5月1日現在）

鹿児島純心大学大学院 教員情報

井上 祐子（INOUE Yuko）	
所属	人間教育学部 教育・心理学科 初等・中等（英語）教育専攻 こども発達コース 大学院 人間科学研究科 心理臨床学専攻
職名	准教授

【学位・業績等】

有する学位	博士（社会福祉学）
学位取得大学	同志社大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻博士後期課程
主な担当科目	〔学部〕 保育実習、保育実践演習、保育内容（人間関係）の理論と方法 〔大学院〕 福祉行政総論
専門分野	ソーシャルワーク論、社会福祉教育・実習、高齢者福祉、児童福祉
主な研究テーマ	福祉人材の職務体制の継続的サポートに関する研究
学会・社会活動	〔学会〕 日本社会福祉学会、日本子ども学会、日本学校ソーシャルワーク学会、同志社大学社会福祉学会、日本社会福祉教育学会 〔社会活動〕 社会福祉法人隈之城福祉協会評議員
主な業績 （教育・研究等）	・ 「高いパフォーマンスを発揮できる、介護従事者のコンピテンシーとは」井上祐子『ケアスル介護』2024. (https://caresul-kaigo.jp/column/articles/35499/) ・ 「育みたい資質・能力に関する保育者のコンピテンシー測定尺度の開発」井上祐子・姜民護・高橋順一・黒木保博『チャイルド・サイエンス』25、2023、pp. 29-35. ・ 「職業人としての基礎能力の育成におけるコンピテンシー測定尺度の開発過程に関する批判的論評」井上祐子・高橋順一・姜民護・黒木保博『鹿児島純心女子大学国際人間学部紀要』27、2021、pp. 25-51. ・ 「2017 年告示保育所保育指針からみる乳児保育における愛着形成に関する支援」井上祐子『鹿児島純心女子大学大学院人間科学研究科紀要』15、2020、pp. 25-33. ・ 「2017 年告示保育所保育指針における保育内容 5 領域の変遷の背景と方向性」井上祐子『鹿児島純心女子大学人間教育学部紀要』26、2020、pp. 3-21. ・ 「保育内容に関する保育者のコンピテンシーの研究動向と課題」井上祐子・姜民護・高橋順一・黒木保博『鹿児島純心女子大学人間教育学部紀要』26、2020、pp. 23-37. ・ 「保育者効力感測定尺度の開発過程に関する批判的論評」井上祐子・高橋順一・中嶋和夫・黒木保博『鹿児島純心女子大学国際人間学部紀要』25、2019、pp. 1-29. ・ 「保育者のケアリング測定尺度の開発過程に関する批判的論評」井上祐子・高橋順一・中嶋和夫・黒木保博『鹿児島純心女子大学国際人間学部紀要』25、2019、pp. 31-47. ・ 「保育者効力感に関する研究動向と課題」井上祐子『鹿児島純心女子大学国際人間学部紀要』20、2014、pp. 47-62. ・ 「Deci 理論を基礎とする高齢者福祉施設の生活相談員の職務満足度に関する検討」井上祐子・黒木保博『社会福祉学』51(4)、2011、pp. 91-103.

（令和 7 年 5 月 1 日現在）

鹿児島純心大学大学院 教員情報

笹川 裕美 （SASAGAWA Hiromi）	
所属	人間教育学部 教育・心理学科 初等・中等（英語）教育専攻 こども発達コース 大学院 人間科学研究科 心理臨床学専攻 ※臨床心理士・公認心理師
職名	助教

【学位・業績等】

有する学位	修士（心理臨床学）
学位取得大学	鹿児島純心女子大学大学院
主な担当科目	〔学部〕福祉心理学、心理学的支援法 等 〔大学院〕臨床心理基礎実習
専門分野	臨床心理学
主な研究テーマ	DV 被害者及び同伴児への支援に関する研究
学会・社会活動	〔学会〕日本心理臨床学会 〔社会活動〕鹿児島市ゲートキーパー養成講座 講師 鹿児島市デートDV講演会 講師
主な業績 （教育・研究等）	・「祖母の子育て参加における子育ての捉えなおしに関する臨床心理学的研究」 鹿児島純心女子大学大学院修士論文（2010.3月） ・「不登校状態を呈する男児の遊戯療法－自己誇示に焦点をあてて－」 鹿児島純心女子大学大学院心理臨床相談センター紀要第5号

学校教育法施行規則で定められた情報の公表（令和 7 年度）

修学上の情報

（２）入学者数、収容定員、在学者数、修了者数、進学者数、就職者数、外国人留学生の数

入学者数、収容定員、在学者数（令和 7 年 5 月 1 日現在）

下表の数値は「令和 7 年度 学校法人基礎調査」の回答に準じる。

研究科	専攻	入学定員	入学者数		収容定員	在学者数	
			男性	女性		男性	女性
人間科学研究科	心理臨床学専攻	10	0	3	20	0	11
			3			11	

修了者数、就職者数、進学者数（令和 7 年 5 月 1 日現在）

下表の数値は「令和 7 年度 学校法人基礎調査」の回答に準じる。

研究科	専攻	修了者数		就職希望者数		就職者数		進学者数	
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
人間科学研究科	心理臨床学専攻	0	6	0	5	0	5	0	0
		6		5		5		0	

外国人留学生の数（令和 7 年 5 月 1 日現在）

本科在籍者： 該当なし

短期留学生： 該当なし

※本項における外国人留学生とは、日本の大学において教育を受ける外国人で、「出入国管理及び難民認定法（昭和 26 年政令第 319 号）」別表第一に定める「留学」の在留資格により在留する者である。

学校教育法施行規則で定められた情報の公表（令和 7 年度）

修学上の情報

（３）授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画（シラバス又は年間授業計画の概要）

授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画（令和 7 年 5 月 1 日現在）

各科目の授業授業の方法、内容、計画はシラバスに明示しており、学内外から参照可能である。

シラバス検索
（学部・大学院共通）

https://k-jundai-web.campusplan.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

※各科目のナンバリングコードは 2 桁の英数字（大学院の場合は GH）で始まる。

学校教育法施行規則で定められた情報の公表（令和 7 年度）

修学上の情報

（４）学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準 （必修・選択・自由科目別の必要単位修得数及び取得可能学位）

学修の成果に係る評価基準（令和 7 年 5 月 1 日現在）

各科目の評価は、担当教員がシラバスに明示した評価方法により行われる。
評価は秀・優・良・可・不可の評語をもって表し、秀（100～90 点）、優（89～80 点）、良（79～70 点）、可（69～60 点）を合格とする。

シラバス検索
（学部・大学院共通）

https://k-jundai-web.campusplan.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

※各科目のナンバリングコードは 2 桁の英数字（大学院の場合は GH）で始まる。

修了の認定に当たっての基準（令和 7 年 5 月 1 日現在）

人間科学研究科 心理臨床学専攻 修了要件単位数（最低修得単位数）：30 単位以上

必修科目：10 単位

選択科目：20 単位以上

修了要件は、修士課程に 2 年以上在学し、30 単位以上を修得すると共に、必要な研究指導を受けた上で修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。

修士論文の審査及び最終試験は研究科委員会において審査委員会を設けて行い、その可否は研究科委員会の議を経て学長が決定する。

取得可能学位（令和 7 年 5 月 1 日現在）

研究科	専攻	学位の名称
人間科学研究科	心理臨床学専攻	修士（心理臨床学）

学校教育法施行規則で定められた情報の公表（令和 7 年度）

修学上の情報

（５）学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援

進路選択に係る支援（令和 7 年 5 月 1 日現在）

教員及び進路支援課は、大学院生一人ひとりが能力、適性、意欲などを最大限に発揮できる職業や進学先などを自ら選択し、決定できるように適切な資料や情報の提供、個別面談、応募書類作成時の助言・添削、面接指導、ハローワーク就職支援ナビゲーターとの面談等の各種支援を行っている。

心身の健康等に係る支援（令和 7 年 5 月 1 日現在）

障害のある入学希望者や学生から受験や修学における支援について要請が出された場合は「障害のある学生への支援に関する基本方針」及び「障害のある学生への支援規程」に基づき、個別の支援方策等について検討する。

保健室では健康管理に役立つ情報を提供すると共に心身の健康に関する相談に対応する。

また、学生相談室では様々な悩みや不安に関する相談に学生相談員が対応し、必要に応じて専門機関を紹介する。

学校教育法施行規則で定められた情報の公表（令和 7 年度）

修学上の情報

（６）教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報 （履修モデルの設定、主要科目の特長、科目ごとの目標等）

履修モデルの設定（令和 7 年 5 月 1 日現在）

学部及び大学院では、計画的な履修に役立てる資料として、履修モデル（資格・免許取得の要件充足に向けた履修例を示した表）またはカリキュラム・ツリー（ディプロマ・ポリシーを踏まえて教育課程の関連性を可視化した系統図）を設定し、学内向け e-learning システム「moodle」に掲載している。

主要科目の特長（令和 7 年 5 月 1 日現在）

臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）（人間科学研究科 心理臨床学専攻／2 年次配当科目・通年）

医療領域、福祉領域での学外実習や附属心理臨床相談センターでの学内実習、各実習の事前事後指導を行う。大学院 1 年生も出席し、2 年次の実習に向けて理解を深めている。

科目ごとの目標等（令和 7 年 5 月 1 日現在）

各科目の到達目標等はシラバスに明示しており、学内外から参照可能である。

シラバス検索
（学部・大学院共通）

https://k-jundai-web.campusplan.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

※各科目のナンバリングコードは 2 桁の英数字（大学院の場合は GH）で始まる。

学校教育法施行規則で定められた情報の公表（令和 7 年度）

修学上の情報

（ 7 ） 研究科、専攻又は学生の履修上の区分ごとの、当該大学院に入学した者のうち標準修業年限以内で修了した者の占める割合、その他学位授与の状況

標準修業年限以内で修了した者の占める割合（令和 7 年 3 月 31 日現在）

令和 6 年度における人間科学研究科 心理臨床学専攻の修了生数は 6 名で、全員に修士（心理臨床学）の学位が授与された。

その内、標準修業年限（2 年）以内で修了した者は 5 名で、全体に占める割合は 83.3%である。

（８）学位論文に係る評価に当たっての基準

大学院における学位論文に係る評価に当たっての基準（令和 7 年 9 月 16 日現在）

審査体制

学位論文の審査体制について、審査委員は本大学院専任教員で構成されており、主査 1 名と副査 2 名の指導教員を含み、審査を行うものとする。

審査方法

学位論文の審査は、本大学院の学位論文審査基準に基づいて総合的に評価する。

学位論文に係る評価項目

1. 研究テーマ
研究テーマが、修士の学位に相応しいものである。
2. 課題設定の明確性
明確な問題意識に基づき、研究の意義や必要性が的確に述べられている。
3. 研究方法の妥当性
研究の目的に照らして、適切な研究方法と分析が用いられている。
4. 倫理的配慮
倫理的配慮が適切かつ十分になされており、研究倫理審査会において承認されている。
5. 先行研究・資料の取扱いの適切性
当該分野の先行研究を渉猟し理解したうえで、研究を当該分野の研究動向の中に位置づけている。
6. 論旨の明確性・一貫性
研究目的、分析、結果、考察の過程においてその論旨が明確かつ一貫している。
7. 構成・表現・表記法の適切性
学術論文として体系的に構成されており、適切な表現・表記法によって記述されている。
8. 学術的・社会的な貢献
学術的な独創性や新規性、重要性があり、社会的要請にも応える可能性を持つものである。
9. 研究倫理の遵守
捏造、改竄、盗用等の不正を行わず、真摯に研究に取り組んでいる。

学校教育法施行規則で定められた情報の公表（令和 7 年度）

財務情報

財務情報（財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書、監事の監査報告書）

財務情報

財務情報は令和 7 年 6 月 18 日現在、“事業・財務報告書（令和 6 年度）”として学校法人鹿児島純心女子学園ホームページの「情報公開」内で公表している。

法人ホームページ
「情報公開」

<https://www.k-junshin.ac.jp/gakuen/about/>